

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1191700044		
法人名	株式会社ウイズネット		
事業所名	グループホームみんなの家・鴻巣		
所在地	埼玉県鴻巣市大芦1499-1		
自己評価作成日	平成28年10月9日	評価結果市町村受理日	平成28年12月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	平成28年11月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

解放感と自由な生活を目指しています。大きく開いた窓から季節がはっきりと感じられるようにしています。認知症と言う観念にとらわれず自己決定出来る生活のお手伝いをさせて頂いています。「生活のペースは自分で決める」の気持ちを大切にしたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・地域に根差し、地域に支えられたグループホームとして、ホーム長、フロア長がそれぞれの立場でリーダーシップを発揮し、利用者の快適な生活のために知恵を出し合い、常に利用者が孤立することなく声をかけ、できることが一つでも達成され、喜びが得られるよう取り組まれている。
- ・ご家族のアンケートでも、「入居者を個人レベルでとてもよく見てくれる」、「ホーム長が入居者の状況を把握していて、職員との関係も良いと思う」などのコメントが寄せられ、利用者個々への細かな対応に高い評価が得られている。
- ・目標達成計画の達成状況については、災害発生時の避難経路や避難方法の確認などの安全対策に取り組まれ、職員の素早い行動や判断応力を意識した避難訓練が実施されたことから、目標が達成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念と事業所理念をリンクさせ常に法人と事業所とが情報共有をしています。	利用者にとって心地良いケアを最優先との考えのもと、独自の理念が作成されている。また、職員会議では利用者の笑顔と満足が職員の充実感にもつながるなどの指導が行われ、理念の実践に取り組みられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	それぞれの人生観や生活歴を考慮し地域自治会行事へ参加させて頂いています。	近所からは花をいただいたり、古着を頂戴するなど、利用者それぞれが地域とのつながり、習慣などが大切にされ、地域の行事などの参加は積極的に支援するよう取り組まれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知ということの理解を説明するより見ていただくことと思っています。その為に積極的に施設の開放を心掛けています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方や行政・包括センター・家族等にご協力を頂いています。多くの意見や要望に沿いながら最善の努力をしています。	運営推進会議では事業所の取り組みをオープンにするよう心がけられ、参加者からの厳しい意見をいただくこともあるが、誠心誠意説明することで、理解と納得が得られ、信頼感の醸成と事業所運営につなげられている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業者連絡会や運営推進会議・地域ケア会議などで情報の発信や受信をしながら協力関係を築いています。	市担当者とは日常的な連携が図られ、運営推進会議などを通して情報をいただいている。また、市のイベントである「ふれあい運動会」への参加は恒例となり、市内の事業所同士の交流などにも参加されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の職員会議・運営推進会議等で家族や包括センター・行政などに現状説明と身体拘束をしないケアについて説明させて頂いています。	身体拘束については、常に真剣に向き合い、「これはどうなのか」との疑問を提示し、運営推進会議などで話し合いが行われている。わからないことは行政にも相談したりすることで、曖昧にせず、拘束に頼らないケアの実践に努められている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議等機会あるごとに虐待が介護をすすめるために意味を持たない事、日々説明しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	インターネットやケア会議で得た情報を持ち帰り職員会議で検討し知識強化に努力しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相互理解に至るまで話し合うこととしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	どんなときにも要望や希望を受け付ける窓口を設けています。	利用者からの要望には、出来る限り実現に向けて取り組まれ、不自由を感じられないよう取り組まれている。家族とは、立ち話の時であっても管理者が本音の話を聴く姿勢を持ち、サービスの向上や運営に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案を持ち寄り話し合える時間が職員会議の中で成立しています。	利用者が快適に過ごされる視点から、意見や知恵が出され、リハビリグッズの使い方を工夫されたり、家族からは費用の面で喜ばれた事例が見られるなど、ベテラン、新人を問わず、職員は日常的に相談し合って、業務の改善に努められている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	決められた勤務時間の中で個性を生かせるような配置を心掛けています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	適材適所の人材配置やより一層の飛躍が望める職員のステップアップ教育にも取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のケア会議や事業者間の交流の中情報交換をしたりお互い刺激出来る関係を築いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に納得のいく話し合いを心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来ることや出来ないことを明確にしお互いの要望や希望を話し合っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人理念に沿ったサービスの提供をさせて頂いています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	聞こえない声こそ耳を傾けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と介護者は常に介護される側の立場を情報共有しながら支えていくようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	孤立しない為に常に語りかけ聞く耳を持つことを心掛けています。敷居の低い施設を作る努力をしています。	退去された利用者の家族が野菜を届けてくれたり、友人、知人も多く来所されている。また、通りがかりの方が来所され、居室から出て交流するなど、利用者が孤立しないよう支援がなされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースの確保と介護者が要介護者同士のかけ橋になれる様に支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してもご家族の要望に添える限りの協力体制作りにも努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの声の反映を大切にしています。本人本位の選択が出来るように努めています。	「どうしましたか」、「元気ですか」など利用者それぞれに合わせた声かけを行い、顔色や話し方から思いを察知するよう取り組まれている。昔話や出身地の話題などをきっかけに人となりが見えることもあり、「会話する」ことを大切にされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	地域に根差した生活の継続が出来るように当施設の利点を活用しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人次第という自己決定を尊重出来るように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	いろいろな意見を検討し合いながら必要なケアが支援出来るものを作成しています。	利用者一人ひとりについての具体的な項目を取り上げたモニタリングが実施され、利用者の現状の即したケアの実現に取り組まれている。また、利用者が達成可能な目標で支援できることを盛り込まれたケアプランが作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	常に今の生活に即したものになっています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の変化に対応できるような柔軟な思考を持って取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の方の支援と知識を頂き生活の中で幅広い対応可能な体制作りにも努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との強い連携体制の確立が来ています。	かかりつけ医や協力医療機関との連携が図られ、情報の共有が円滑に行われている。医師からの受診後の指示はホーム長を通して各職員に繰り返し伝えられ、現場のケアへの徹底に努められている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な訪問の中で些細なことでも気楽に話せる連携となっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の細やかな情報交換によりその後には繋げています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	機会が或る度に情報発信やご家族・関係者との話し合いの時間をもっています。	「自然のままにここで最期を」との家族の要望に応じて看取りを実施した実績があり、事業所の指針をもとに随時家族や医療機関との話し合いがなされている。また、職員が安心して看取りにチャレンジができるよう、緊急時の対応と密な連絡体制が築かれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備えて事例検討やインターネットを活用させて頂いています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を実施しています。	災害発生時のリーダーシップの取り方などを常に考え、想定別に「避難動線」の確認訓練が実施されている。また、隣のコンビニや近隣住民にも声掛けを行い協力を依頼されて消火訓練を行うなど、様々な災害対策が取られている。	災害発生は予測不可能であると想定されることから、避難誘導や避難方法で全職員が同じように行動ができるよう、習慣化と統一化を図る取り組みに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人となりを大切に考えています。	病気や具合が悪い時など、居室の出入り口のカーテンで外から見えないようにプライバシーの確保が行われている。「その人にとって嫌なことはしない、言わない」を基本に一人ひとりを尊重した対応に努められている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中から見つけられる個性を生かした対応に近づける努力をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の要望になるべく近い対応を心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔を優先させて頂きながらもその人らしさを維持できるように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と同じ食事を円卓方式で楽しんでいます。	食事は栄養のバランスや好き嫌い、アレルギーなどに十分配慮された献立がされている。食べる楽しみを大切に、お稲荷さんやおじや、味噌おにぎりなど、利用者が手にもって食べられるものも提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分が不足と思われる利用者様には必要量が確保できるように支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれに必要な方法や声掛けをさせて頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ習慣をなくさない為定時誘導や声かけをしています。	一人ひとりのタイミングを掴み、さりげない誘導で、利用者に不快感を持たせない支援に努められている。トイレでの排泄を基本に、トイレのドアの開閉、声かけなど、プライバシーやブライトにも配慮がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく自然なお通じを促すために水分や運動を心掛けています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午後のゆったりとした時間に一对一の入浴を実施しています。	1対1の個浴のほか、リフト浴も設置され、浴室はヒートショック対策が取られるなど利用者には安心して入浴していただけるよう支援がなされている。季節湯を楽しまれたり、愚痴を聞いてあげるなどの取り組みも行われ、同性介助の希望にも対応されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自己決定を一番にしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	状態の変化を常に情報共有しながら医師や薬剤師との連携に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	沢山の声掛けや日々の生活の中で一人一人の好みを模索しながら支援できるようにつとめています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族と相談しながらの支援とさせて頂いています。	日常的には散歩やテラスでの日光浴、ホビーやコスモスを見に出かけるなどの外出を楽しまれている。また、ボランティアの手伝いをいただきながら、鴻巣市のふれあい運動会へは毎年多くの利用者と家族が参加されている。	利用者の外出については、家族の関心が高いと想定されることから、イベント外出だけでなく、日常の日光浴や散歩の様子などを写真に撮り、家族に報告するなど、事業所の取り組み姿勢を伝えていかれることに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の意向とご本人の意向を尊重したものにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と相談の上の支援とさせていただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	開放感を大切にしています。	気候の変化などの自然の移り変わりが感じられる環境作りに取り組み、折鶴や花、幼稚園児が作った作品などが飾られている。利用者はそれぞれの居場所で落ち着いて過ごされ、談笑しながら洗濯物をたたんだりする姿が見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に過ごせる共有スペースを設けています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや見慣れたもので安心できる空間を演出させて頂いています。	日当たりが良く、居室では花や植木を育てる利用者もおられ、一人ひとりの生活や習慣に合わせた居室作りがなされている、読書を楽しんだり、モップかけの掃除を職員と一緒にするなど、自由な生活ぶりが伺われる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー仕様で行動範囲を広げています。		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名 みんなの家・鴻巣

作成日: 平成 28 年 11 月 25 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	全職員が緊急の災害や地震への避難行動を瞬時に開始できていない。指揮行動する人材の育成不足	全職員が、どんな状況の中でも叱咤のリーダーシップを発揮でき、適切な誘導へ繋げることが出来る。	繰り返しの訓練。告知なく避難行動を試みる。実際に行動して身体で覚えていく。避難経路の安全性の確認及び管理をする。	12ヶ月
2	49	外出する為の手段がタクシーに限られてしまう為、金銭的な状況や身体的な問題もあり、限定された人に偏ってしまう。	外出しなくてもホームの中で楽しめる機会を増やし、季節を感じられるように出来る。	散歩や外気浴、訪問販売での楽しみを写真にして知らせる。家族を巻き込んでイベントを計画する。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。